



福島県の学力調査の結果が公表されました。
結果に対して、「今年の学年は・・・」と児童生徒のせいにしてはいないでしょうか？
学力調査は、結果を分析し「**これまでの指導を振り返る**」ことが重要です。

指導を振り返る視点

全国平均正答率より高かった。

➡ これまでの指導のどこが効果的であったか。(成果)

全国平均正答率より低かった。

➡ これまでの指導のどこが課題か。

分析例 1

観点 国語への関心・意欲・態度の正答率

正答率が高くなると考えられる要因

- 言語活動の充実をめざした授業を行った。
- 個に応じた指導を行った。
- 伝え合いを意識して授業を行った。
- 児童生徒が関心をもつような課題を設定した。

正答率が低くなると考えられる要因

- 講義形式や一斉指導の授業が多かった。
- 指導書どおりの課題で授業を行うことが多かった。
- 児童生徒一人一人の意見を取り上げることが少なかった。



自校の指導を反省する。



授業改善につなげる。



分析例2

観点 書く能力の正答率

正答率が高くなると考えられる要因

- 「書く」言語活動を授業の中に計画的に位置付けた。
- 自分の考えを自分の言葉で書くなどのノート指導を行ってきた。
- 定着確認シート（特に、条件作文）を行ってきた。



正答率が低くなると考えられる要因

- 穴埋め式のワークシートを使うことが多かった。
- 書くことは個人差が大きいので、言語活動としてはあまり取り上げなかった。
- 定着確認シート（特に、条件作文）は、採点に時間がかかるので行わなかった。

小中連携の視点

小学校 書く能力 全国平均より、かなり高かった。
中学校 書く能力 全国平均より、かなり低かった。



「同じ問題、児童生徒ではない」ということを差し引いても、書く能力の差が小学校と中学校で大きかったことには、原因があります。ここにも、授業改善へのヒントがかくされています。

分析例3

活用の正答率

「活用問題」の正答率を分析することにより、**言語活動の充実**をめざした授業に対する**成果と課題**が見えてきます。



活用の分析でチェックしたい指導事項

- 単元を貫く言語活動を設定して、授業実践してきたか。
- 学習指導要領の指導事項から「身に付けさせたい力」を授業に位置付けてきたか。
- 言語活動は、「身に付けさせたい力」「児童の実態」に適したものを設定したか。



例を参考に、自校の学力調査の結果を分析してください。次回は、具体的な問題をもとに考えていきます。